

# うっしっしいー情報2016

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月12日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が94万7千円、雌が92万9千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	11	0.995	892,473	7	0.786	778,834	18	848,280
篠山	4	0.936	958,770	2	0.787	842,400	6	919,980
丹波	18	0.974	941,940	11	0.877	889,036	29	921,873
朝来	6	0.944	963,180	4	0.865	890,190	10	933,984
播磨	11	0.883	844,658	10	0.840	854,388	21	849,291
美方郡	70	0.980	968,621	50	0.899	997,034	120	980,460
豊岡	20	0.985	937,656	12	0.858	934,020	32	936,293
養父	30	0.996	960,228	20	0.884	930,744	50	948,434
摂津・神戸	4	0.943	945,000	1	0.844	768,960	5	909,792
県北C	3	0.870	918,000	6	0.793	810,360	9	846,240
市場全体	177	0.973	946,751	123	0.871	929,485	300	939,672

# 10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	43	1.003	979,208	27	0.918	981,160	70	979,961
2	照忠土井	23	0.980	944,765	17	0.869	951,925	40	947,808
3	丸宮土井	30	0.971	978,048	22	0.813	896,891	52	943,712
	総計	158	0.978	942,710	111	0.872	926,864	269	936,171
4	千代藤土井	7	0.989	954,720	4	0.829	893,430	11	932,433
5	芳山土井	36	0.962	901,560	27	0.902	945,240	63	920,280

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A+ → A	A+ → A	B	A	A+++
2	照忠土井	B	A+++	A+	A+	A+++	A+
3	丸宮土井	B	B	A+	A++	A++	A++
4	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++
5	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成28年7月現在)

# 子牛が一番多く摂取するエサは・・・

## ○はじめに

子牛が一番多く摂取するエサは何でしょうか？濃厚飼料でしょうか？粗飼料でしょうか？ いろいろ違います。一番多く摂取するエサは・・・「水」なのです。また水を摂取しないと人工乳を食い込むことができません。生後間もない子牛では、母乳や代用乳により水分がある程度確保されますが、人工乳の摂取量が増える時期からは、飲水により水分を確保する必要があります。夏場は十分な水があれば、飲水量が自然と増加しますが、水温の下がる今からは、子牛への給水に工夫が必要となります。そこで今回は、子牛に給与する水についてお話しします。

## ○子牛にはどのくらい水分が必要なのでしょう？

では、子牛にはどのくらい水分が必要なのでしょう？日本飼料標準肉用牛（2008年版）によると、乾物摂取量の3～4倍が必要であるとされています。例えば子牛に人工乳 1.5kg を食い込ませたい場合、約5リットルの飲水量を確保する必要があります（表1）。水温の下がる冬場では、いかに飲水させるかが、子牛育成のポイントになります。

表1 子牛の水分要求量

	給与量①	乾物率②	乾物量①×②	水分要求量※
人工乳	1.5kg	87%	1.3kg	5.2kg

※水分要求量を 4kg/kg 乾物摂取量とした場合

## ○冬季では子牛への温水給与に効果あり？！

水温が下がる冬場の飲水対策として、宮崎県畜産試験場が平成 17～18年に子牛への温水給与試験を行っています。試験の内容は、平均 13℃の水道水（冷水区）と、ヒーターで加温した 28℃の温水を給与した場合（温水区）の飲水量と人工乳の摂取量、発育を比較した試験です。

飲水量は生後60日頃までは差がありませんが、人工乳の摂取量が増え始める時期では温水区の飲水量が増加する傾向にあります（図1）。またそれとともに、温水区では、人工乳の摂取量も生後60日以降では増加する結果となりました（図2）。

子牛発育の比較では、温水区では冷水区と比較して人工乳の摂取量が増加したために、離乳日齢が短縮される結果となりました（表2）。このデータから子牛に温水を給与することで、ほ乳後期から離乳時に向けて、円滑に人工乳への切り替えが可能となるのがわかります。

図1 1日1頭当たり飲水量の推移

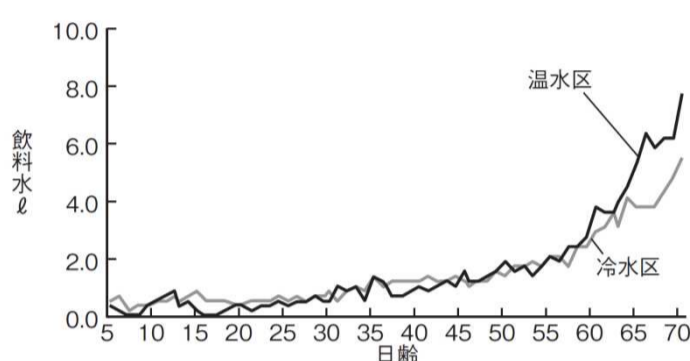


図2 1日1頭当たりスターター摂取量の推移

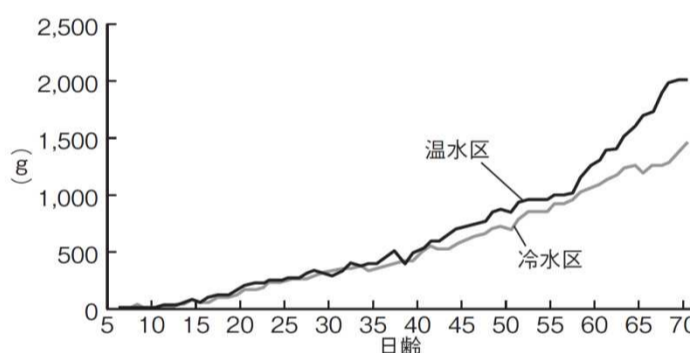


表2 子牛発育の比較

	生時体重 (kg)	母子分離日齢 (日齢)	離乳時日齢 (日齢)	離乳時体重 (kg)	日齢体重 (kg/日)
冷水区	29.8	5	77.8	84.5	0.70
温水区	32.0	5	71.3	83.5	0.72

## ○簡易な温水槽の設置

冬場に温水給与する方法として、各地の事例から、熱帯魚用のヒーターを活用した簡易な温水槽が紹介されています。熱帯魚用のヒーターは5,000円程度と安価で入手可能であり、取り組み易い工夫です。

設置のポイントとしては、水槽の容量に合わせたヒーター能力の選定と、子牛のイタズラ防止が重要となります。子牛からヒーターが見えないように工夫することで、イタズラ防止を行っているようです（図3）。

★ヒーターは必ず空焚き防止機能がついて物をお使いください！！

水槽の水が無くなると、火災の原因になります！！

## ◎まとめ

- ▷水は、子牛が一番多く摂取するエサである。
- ▷子牛の給水を温水にすれば、飲水量が増加し、スターターの摂取量も増える。
- ▷熱帯魚用水槽ヒーター（空焚き防止機能付き）を活用すれば簡易な温水槽が設置できる。



熱帯魚用ヒーター  
空焚き防止機能付

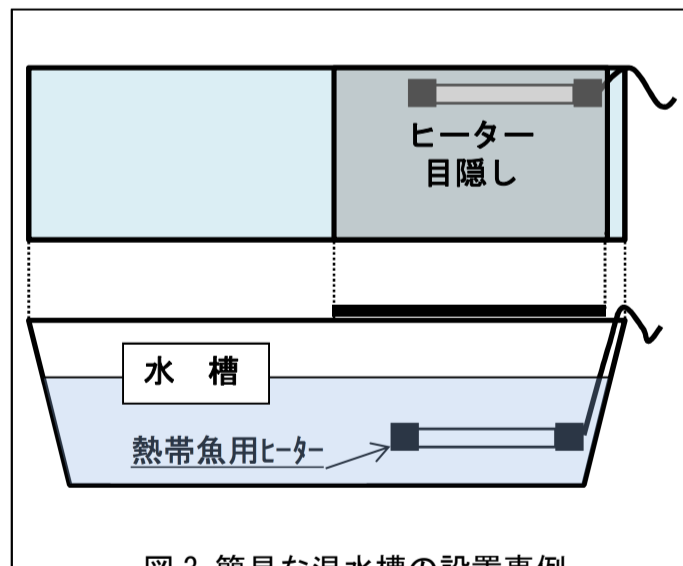


図3 簡易な温水槽の設置事例  
上が平面図、下が側面図

## H28 年度間接検定速報

★1 頭の結果が出揃いました。今後もデータが追加されしだいお伝えしていきます。

北部農業技術センター提供データを加工

種雄牛	母の父	検定番号	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	去勢	雌	全体
			種 雄 牛	北美波	宮喜	丸尚	茂広波	第2照久	光安	菊俊	北谷松	—	広正	丸福	福芳	丸宮	谷石	茂広波	鏡中止	鏡中止	—	—	—
奥人	照菊波	性 別	去勢	去勢	去勢	去勢	去勢	去勢	去勢	去勢	8頭	雌	雌	雌	雌	雌	雌	雌	雌	6頭	8頭	6頭	14頭
		検定場所	農家	農家	農家	農家	農家	農家	農家	農家	—	県	県	県	県	県	県	県	県	—	—	—	—
		枝肉重量	442	383	387	489	394	469	435	488	435.9	326	317	419	410	325	357			359.0	435.9	359.0	402.9
		脂肪交雑	6	9	5	3	7	4	4	4	5.3	7	8	9	8	5	9			7.7	5.3	7.7	6.3
		枝肉規格	A-4	B-5	A-4	B-2	B-4	A-3	B-3	A-3	—	A-4	A-5	B-5	A-5	A-3	B-5			—	—	—	—